

2023年4月の行事予定表

1	土		16	日	礼拝式、奨励者=T 姉妹 グループに分かれ協議します。
2	日	礼拝式(聖餐式)証し=D 姉妹	17	月	
3	月		18	火	
4	火		19	水	
5	水		20	木	祈禱会
6	木	祈禱会	21	金	
7	金	(7-11日まで永松師留守します)	22	土	
8	土		23	日	礼拝式、奨励者=Y 兄弟 教会総会
9	日	イースター礼拝式 「証し」=K 兄弟、墓前礼拝	24	月	
10	月		25	火	
11	火		26	水	
12	水		27	木	祈禱会
13	木	祈禱会	28	土	
14	金		29	日	礼拝式、証し=A 師
15	土		30	月	

4月お誕生・洗礼記念日の皆様、おめでとうございます。

教会月報

2023年4月

No.383

岡山ナザレン教会 月報編集委員会

信 頼

「あなたがたは決して別な考えを持つことはない
いと、わたしは主をよりどころとしてあなた
方を信頼しています。」

ガラテヤ5章10節

公式には3月末で岡山教会の代表役員を終え、正式な教職者としての主任牧師ではありませんが、急遽、人事異動があり、それを受けて4月号の巻頭言を書かせていただいております。

季節はレントを迎え、9日には今年のキリスト教暦でイースター(復活祭)を迎えます。主イエス・キリストの受難を通して私たちの罪を贖って下さった神の恩寵に感謝します。

さて、長らく牧師を経験させられ早や47年の年月を数えました。その間、実に様々なことを経験しました。多くのことを語らず、すべきことを黙々と行われる信仰者の皆様には頭が下がる思いです。

教職者と信徒の間には大きな違いがあります。それは越えることができないほどのものです。神の声に召し出だされた者は、全てを捧げて主イエスに従います。その際には親、兄弟姉妹を残してです。そして、遣わされるところがどこであってもその地に派遣されるのです。その覚悟は一般信徒とは異なると言えます。それは、教職者が偉いと言っているのではなく、それぞれの働きが異なると言いたいからであります。その一番根底には神と私、わたしと私たちの関係が重要です。信頼関係がないところではむなしさが存在することでしょう。

牧師 永松 清

永松先生ありがとうございました

2023年3月26日(日)、永松清先生は、39年にわたる岡山教会牧師としてのご奉仕最終日を迎えられました。

教会堂には40名(おとな31名、こども9名)の方々が静かに着席。永松先生最後の礼拝を共にしたいと、遠方から集ってくださった方々も。

永松先生は、マルコ福音書15章21~32節から「十字架上のイエス」と題してメッセージを語って下さいました。召命を受けて神学生になられた50年前のエピソードから、聖地旅行でイエス様が十字架を背負って歩まれたドロローサの道に思いを馳せたことから語りおこされました。イエス様は人々の嘲笑にも沈黙を守られお苦しみに耐え、神のご意志を全うされたことを、あらためて聖書から学んだひとときでした。

永松先生・淑子先生への感謝として、責任役員のD兄からの目録、子どもたちからは花束の贈呈。続いて、この日で礼拝最後のD夫妻にも子どもたちから花束が。そして、客員の藤原ご一家がドイツへ転居されるご挨拶をされました。寂しさのいっぽうで、息子さんの岡山理科大学入学で初めて礼拝に出席されたご一家に歓迎の拍手。

長きにわたる永松先生のご労を想い、皆さんの感謝が満ち溢れた礼拝の一日でした。

K.Yさんは、この春から大阪に進学し、神戸の親戚の家から通学予定です。



大田先生ご夫妻 永松先生ご夫妻

進級式



春に子供達もそれぞれ一学年進級します。コロナの中、寸断されながら続いた教会学校でしたが、久しぶりに皆さんに紹介され、先生のお祈りの祝福を受けました。おめでとう！午後からはお祝い会を楽しみました。

大学進学おめでとう



第4の人生への旅立



長く教会の責任役員を務めたD兄もN姉と共に東京に転居します。新たな働きが祝されますように！



岡山で大学生だったN.Jさん(旧姓Kさん)も三人の子供のママに、大分から最後の礼拝に駆けつけてくれました。

お帰りを待っています

昨年春より爽やかな風を運んでくれた藤原さんご一家。また合える日まで、シャローム!!



伝えるように進んでいきましょう。

昨日、孤独な状況で絶望し自らの命を絶つ方が多いと聞きます。しかし神さまから全ての人が愛されていると知ったなら、その思いは天と地ほどの差が生まれます。そこで、その愛されている恵みをより多くの人に延べ伝えることが必要です。多くの苦しむ方々に神の愛を

「一方的な愛とは」 K.Y兄

二月二十六日

ローマ三章二十三、二十四

二十一日の灰の水曜日より受難節(レント)に入りました。この四十日の間は主イエスの苦難を偲ぶ期間となります。この四十という数字は聖書の中で度々登場する象徴的な数字の一つですが、特に四十という数は神の裁きの数字の象徴です。ノアの洪水が続いた四十日、モーセの出エジプトの四十年、命を狙われたエリヤは四十日四十夜何も食べずホレブ山にたどりつきましたし、ヨナもニネベの人々に四十日後に神の裁きがあると伝えました。そしてイエス様の洗礼を受けられた後の四十日の断食を偲んでこの受難節の四十日が定められています。今日の聖書箇所は有名なローマ書三章からです。パウロの《信仰によって義とされる》がしっかりと書かれた章でもありますが、それに並んで重要な箇所がこの二十三、二十四節です。《キリスト・イエスの贖いを通して神の恵みによって無償で義とされる》《この御言葉はこの受難節にも一度確認されるべきことだと思えます。《信仰によって義とされる》とは行為義認行いによって義とされることの批判ですがこれはあくまでも『神様からの一方的な恵み』です。罪を許されて義と認められるのは、全て神様からの恵みのみだということです。神様から許され、愛されていると実感できたから私達は洗礼を授かることが出来ました。それも全てキリスト・イエスの十字架のあがないによります。イエス様は神の御子でありながら十字架上で絶望の思いを持たれました。その絶望は私達には想像できません。しかしイエス様は復活されました。苦しみの四十日から始まったイエス様の宣教生活も復活後四十日間弟子たちと過ごされたことあり、幸せな四十日だったに違いありません。

「一方的な愛とは」 K.Y兄

編集後記

紙面の都合でお引越です

◇永松先生の最後の礼拝をお伝えでき感謝です。なんと盛り沢山の26日だったことでしょう！◇新しい牧師の赴任がなくなり、先生は退任し、その他にも幾つものことが重なり、このひと月は怒濤のようだと感じている方も多いでしょう。「ピンチはチャンス」という言葉があります。ピンチはピンチなんだけど、一体何がチャンスなの？と言いたくなりますね。◇聖書には「私は弱いところに働く」というイエス様の言葉があります。私たちのチャンスはイエス様に働いていただくことです。あの先生、この人、ではなくイエス様です。私たちは無牧ではありません。私達を牧するのはイエス様だという事を再認識する1年になりますように。